

施策の方向 III-2 健全な水循環の確保

指標	目標・現状・指標がめざす方向
透水性舗装道路面積	【現状】 385,003 m ² (2009年度) 【指標がめざす方向】 多いほうが良い
湧水地周辺整備数	【現状】 8か所 (2009年度) 【指標がめざす方向】 多いほうが良い
河川流量	【目標】 現状の流量を維持すること 【現状】 多摩川本川：15.96～21.21 m ³ /秒 (2009年度) 【指標がめざす方向】 現状維持
下水の高度処理普及率	【現状】 高度処理普及率：19.6% (2009年度) 【指標がめざす方向】 高いほうが良い
親水護岸整備延長	【現状】 市内河川の親水整備延長：10,773m (2009年度) 【指標がめざす方向】 多いほうが良い
市民一人一日当たりの生活用水使用量	【現状】 市民一人一日当たりの生活用水使用量：237ℓ、生活用水料金調定水量：122,559,827 m ³ (2009年度) 【指標がめざす方向】 節水

目標・指標の達成状況	指標評価	方向評価
■指標：透水性舗装道路面積 ・面積 10,225m ² を整備。透水性舗装の歩道は施工総面積 425,033m ² 。 (対前年度：19,580m ² 整備面積減少、対基準年度：多い)	2	3
■指標：湧水地周辺整備数 ・湧水地 1か所を2次整備、湧水地整備累計9か所 (対前年度：増減なし、対基準年度：多い)	2*	
■指標：河川流量 ・多摩川本川の平均流量は 18.55～31.28m ³ /秒 (平均 23.99m ³ /秒) (対前年度、対基準年度：多い)	3*	
■指標：下水の高度処理普及率 ・27.0% (対前年度：増加、対基準年度：高い)	3	
■指標：親水護岸整備延長 ・親水護岸の整備延長 11,750m (対前年度：増減なし、対基準年度：多い)	2*	
■指標：市民一人一日当たりの生活用水使用量 ・235リットル (対前年度：1.3%減少、対基準年度：節水)	3*	
■指標：河川流量 (再掲)	3	

[方向評価は「*」の付いた指標評価の平均値をもとに評価しています]

現 状

■透水性舗装^{*63} 道路面積

透水性舗装は、歩道に採用されています。道路の新設や拡幅、交通安全対策による歩道設置や歩道の改築により、毎年、透水性舗装道路面積が増加しています。

■湧水池周辺整備数

1991年から1997年の湧水地の資料を基に、2000年度に98か所の湧水地を調査した結果、約40%の湧水地が枯渇又は消失して



*63 透水性舗装：河川への雨水流出抑制、地下水の涵養や街路樹の保護育成を図るため、雨水の一部を地下に浸透させることができる道路等の舗装。

いました。

2003 年度に、多摩川水系の台地・丘陵地を調査したところ、199 か所の湧水地を確認、2004 年度に鶴見川水系で 252 か所の湧水地を確認できましたが、調査では、自噴したり、河川の水源を形成したりする湧水は少なく、崖にたれているような、いわゆる「しぼり水」程度の湧水が多く見られます。

■河川流量

●多摩川（多摩川原橋（都内）、多摩水道橋、二子橋、調布取水堰（上））：

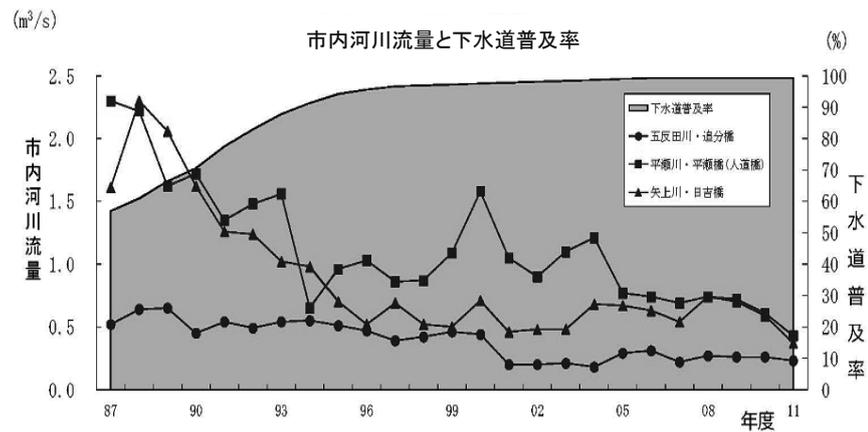
平均流量は 18.55～31.28m³/秒（平均 23.99m³/秒）で、前年度（20.99m³/秒）及び 2009 年度の 15.96～21.21m³/秒（平均 18.45m³/秒）に比べると増加しています。（国土交通省調査による）

●鶴見川（亀の子橋（横浜市内））：

平均流量は 5.21m³/秒で、前年度（5.56m³/秒）及び 2009 年度（6.24m³/秒）に比べて減少しました。（国土交通省調査による）

●市内河川（矢上川、平瀬川、五反田川）：

下水道の普及により、流量は年々減少傾向にあります。魚類は、麻生川ではオイカワ、アユ、ギンブナ等が、片平川ではメダカ、トウヨシノボリ、ドジョウ等が、真福寺川ではドジョウ、トウヨシノボリ、有馬川ではスミウキゴリが確認されています。



河川流量測定結果

測定点		流量：年平均値 (m ³ /s)						
		2000年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	
多摩川水系	本川	多摩川原橋*	15.57	19.14	32.19	18.57	21.80	24.14
		多摩水道橋*	16.77	18.05	29.81	15.96	17.77	21.97
		二子橋*	18.72	20.98	35.73	18.04	21.83	18.55
		調布取水堰*	23.33	33.76	34.55	21.21	22.88	31.28
	一ヶ領用水	本川・堰前橋	1.28	0.64	0.61	0.67	0.68	0.58
		宿河原線・出会い橋	0.83	0.40	0.29	0.32	0.29	0.23
		円筒分水下流今井仲橋	0.33	0.16	0.24	0.28	0.46	0.33
	三沢川・一の橋	0.75	0.60	0.65	0.67	0.80	0.92	
	平瀬川・平瀬橋(人道橋)	1.58	0.69	0.74	0.72	0.61	0.43	
	五反田川・追分橋	0.44	0.22	0.27	0.26	0.26	0.23	
鶴見川水系	片平川・片平橋下	0.06	0.06	0.07	0.05	0.05	0.05	
	麻生川・耕地橋	0.89	0.80	0.81	0.67	0.74	0.81	
	真福寺川・水車橋前	0.01	0.04	0.05	0.05	0.05	0.04	
	矢上川・矢上川橋*	2.62	2.47	2.96	3.20	2.38	4.63	
	有馬川・五月橋	0.15	0.11	0.17	0.13	0.15	0.13	
	渋川・渋川橋	0.27	0.12	0.18	0.23	0.24	0.28	

備考 *は国土交通省測定

■下水の高度処理普及率

「東京湾流域別下水道整備総合計画」に基づき、関係自治体が連携して高度処理施設の導入を進めています。2011年度に、入江崎水処理センター西系高度処理施設の一部が稼働を開始し、高度処理普及率は27.0%となりました。

■親水護岸整備延長

●多摩川：

オープンスペースが広がり、アクセスも可能な自然の水辺が残され、レクリエーションやスポーツ、釣り等、市民の憩いの場となっています。また、上流から河口部まで様々な魚や植物、鳥などが生息しています。

●市内河川：

治水対策で護岸や川床等の改修・整備が進み、自然護岸はほとんど残されていません。このため、二ヶ領用水総合基本計画*64（1992年策定）等に基づき、親水護岸の整備、川沿いの緑化、水深や流速に配慮した河川敷の整備など、多様な生物が生息できる河川構造の導入等を図っています。

2011年度末現在、市内河川の親水護岸整備延長は11,750mとなっています。

また、市民生活に密着した魅力ある水辺空間の創出を目指し、急激な都市化によって損なわれた水辺空間である江川に等々力水処理センターの高度処理水を活用した全長2,400mのせせらぎ水路と緑道が2003年5月に5年の歳月をかけて完成しました。

●海域：

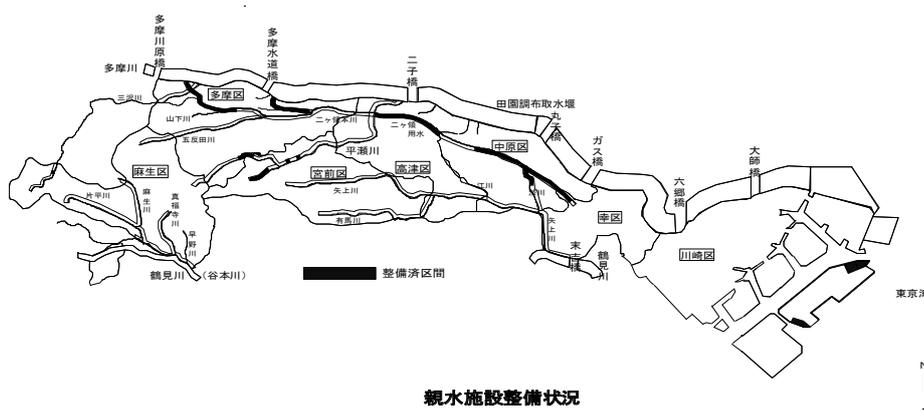
これまで、川崎港は京浜工業地帯の中核を成す工業港として主に産業の利用に供されていたことから、臨海部は市民から遠い存在となっていました。このため、市民に開かれた安全で快適な臨海部の環境再生を目指し、海と親しめる公園等の整備を進め、約32haの臨海公園（2,513mの水際線延長）を有しています。なお、2008年4月には、約50年ぶりに川崎に復活した人工海浜を有する東扇島東公園が完成しました。



二ヶ領河川



人工海浜



親水施設整備状況

*64 二ヶ領用水総合基本計画：二ヶ領用水を単なる歴史的遺産の保存、復元としてではなく、まちづくりという面から総合的に捉え、安全で豊かな都市空間の創造を目指す計画。

■市民一人一日当たり生活用水使用量

市民一人一日当たり水使用量は、1995年度をピークに減少傾向が続き、2011年度は235リットルと前年比で1.3%減少となり、2009年度比では0.8%の減少となりました。

【年度別 生活水の一人一日当たり水使用量】

年 度	2009	2010	2011
使用量 (L/日/人)	237	238	235

具体的施策事業の概要

施 策 の 方 向

Ⅲ-2 健全な水循環の確保

施 策 の 柱

Ⅲ-2-1 水循環の実態把握

Ⅲ-2-2 地下水、湧水の保全

Ⅲ-2-3 河川環境等の保全

Ⅲ-2-4 効率的な水利用の推進

Ⅲ-2-1 水循環の実態把握

Ⅲ-2-1-1 地形・水文地質の状況把握

具体的施策名	2011 (平成 23) 年度実績	2012 (平成 24) 年度計画等
地質調査資料の収集・整理による地質構成の把握 [環：環境対策課]	地盤情報データベース化	引き続きデータベース化

Ⅲ-2-1-2 湧水地の実態把握

具体的施策名	2011 (平成 23) 年度実績	2012 (平成 24) 年度計画等
湧水地の水質調査 [環：環境対策課] [環：公害研究所]	整備予定地の湧水地の水質調査：1件	整備予定地の湧水地の水質調査：1件

Ⅲ-2-2 地下水、湧水の保全

Ⅲ-2-2-1 地下水かん養能力の保全・回復

具体的施策名	2011 (平成 23) 年度実績	2012 (平成 24) 年度計画等
地下水保全計画に基づく、計画的、総合的な施策の推進 [環：環境対策課]	□取組状況 「川崎市地下水保全計画」に基づき、「地下水保全計画推進委員会」を開催し、委員相互の協力により、健全な水循環の保全を推進している。 ・湧水地1か所整備(2次整備)	
涵養域における雨水浸透 ^{*65} の推進 [環：環境対策課]	□取組状況 ・継続実施	継続実施
大規模開発における雨水を浸透させる機能についての配慮の促進 [建緑：河川課]	□指導件数、年間貯留量 ・公共施設における雨水貯留施設整備件数14件、貯留量8,240 m ³ (東菅小学校、旭町小学校、重度障害者生活支援施設、桜本住宅、川崎	□予定 11公共施設で導入 井田病院(継続)、中央療育センター(継続)、青少年科学館、重度障害者等生活支援施設、仮称新川崎産学官共同研究施設、生田緑地東ロビジターセ

*65 雨水浸透：(巻末索引用語参照)

具体的施策名	2011（平成23）年度実績	2012（平成24）年度計画等
	高等学校、東門前小学校、川崎区内複合福祉施設、大谷戸小学校、川崎競輪場、麻生消防署、富士見公園、東菅小学校、向の岡工業高校、多摩高校） ・民間施設における雨水流出抑制指導指導件数：109件、貯留量：約23,000m ³	ンター、玉川こども文化センター、さくら小学校、大師小学校、百合丘小学校、上作延小学校
歩道や公共施設等の整備における積極的な透水性舗装等の導入 〔ま：施設計画課〕 〔建緑：道路整備課〕 〔建緑：道路施設課〕 〔建緑：企画課〕	【I-3-3-1 施策参照】	【I-3-3-1 施策参照】
多自然川づくり ^{*66} の推進 （河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するための河川管理） 〔建緑：河川課〕	□河川改修区間延長（多自然川づくり） ・平瀬川支川：44m（累計715m）	□計画 ・平瀬川支川：20m

III-2-2-2 湧水地の保全

具体的施策名	2011（平成23）年度実績	2012（平成24）年度計画等
湧水地の整備の推進 〔環：環境対策課〕	□湧水地周辺の整備 1か所2次整備	継続実施
環境影響評価に関する条例等による湧水地の保護への要請 〔環：環境対策課〕	□要請件数：0件	継続実施

III-2-3 河川環境等の保全

III-2-3-1 適正流量の確保

具体的施策名	2011（平成23）年度実績	2012（平成24）年度計画等
河川水質管理計画に基づく、計画的、総合的な施策の推進 〔環：環境対策課〕	【III-2-2-1 施策参照】	【III-2-2-1 施策参照】
地下水の賦存量を確保するための雨水の地下浸透の推進 〔環：環境対策課〕	継続実施	継続実施
下水の高度処理水の活用 〔上下：下水道計画課〕	□高度処理水の再利用量 ・等々力水処理センターの高度処理水を江川せせらぎ水路用水として利用 ・再利用水量：2,856,138m ³ /年	継続実施

III-2-3-2 水辺環境の保全

具体的施策名	2011（平成23）年度実績	2012（平成24）年度計画等
良好な自然環境を残す多自然の河川の維持・再生 〔建緑：多摩川施策推進課〕 〔建緑：河川課〕	多摩川に関する推進計画「多摩川プラン ^{*67} 」の推進 ・ごみ清掃 ・生物が棲みやすい環境創造のための刈り残しの実施	引き続き多摩川に関する推進計画「多摩川プラン」の推進
草刈り等河川の適正な維持管理の	□管理活動の実施回数	□継続実施

*66 多自然川づくり：河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うことをいう。

*67 多摩川プラン：（巻末索引用語参照）

具体的施策名	2011（平成23）年度実績	2012（平成24）年度計画等
実施 〔建緑：多摩川施策推進課〕 〔建緑：河川課〕	・多摩川緑地草刈り：年6回 □市内河川の維持管理 ・草刈り・施設維持	□継続実施
市民参加による水辺のクリーン運動及び維持管理の推進 〔建緑：河川課〕 〔市：市民協働推進課〕	□クリーン運動実施回数 ・鶴見川流域クリーンアップ作戦：7回 □多摩川美化活動（6月5日実施） ・市民参加数：175団体、 14,679人参加 ・一般ごみ、空き缶等約8.28トンの 分別収集を実施 □河川愛護ボランティア制度 ・市民参加数：5団体、300人参加	□クリーン運動実施回数 ・鶴見川流域クリーンアップ作戦 □多摩川美化活動（6月3日実施） ・市民参加数：174団体、 15,039人参加 ・一般ごみ、空き缶等約8.98トンの 分別収集を実施 □引き続き実施

Ⅲ-2-4 効率的な水利用の推進

Ⅲ-2-4-1 雨水等の効率的な水利用の促進

具体的施策名	2011（平成23）年度実績	2012（平成24）年度計画等
公共施設における雨水を利用した中水道システム ^{*68} の導入の推進 〔ま：施設計画課〕	□システム導入件数 ◇中水道システム：8か所（今年度0件） ・小中学校4校（1992年度～）、 ・多摩区役所総合庁舎、川崎病院、北部リハビリテーションセンター・百合丘老人いこいの家	◇中水道システム ・予定なし
公共施設における雨水貯留槽の設置（川崎病院、井田病院、多摩病院） 〔病：川崎病院事務局庶務課〕 〔病：井田病院事務局庶務課〕 〔病：経営企画室〕	□雨水貯留槽の設置 ・井田病院 □雨水貯留槽の稼働 ・川崎病院（1998年度導入） ・多摩病院（2005年度導入）	□雨水貯留槽の稼働 ・川崎病院（1998年度導入） ・井田病院（2011年度導入） ・多摩病院（2005年度導入）

Ⅲ-2-4-2 節水の促進

具体的施策名	2011（平成23）年度実績	2012（平成24）年度計画等
水の適正使用等に向けた各種広報活動の実施 〔上下：サービス推進課〕	・小学生社会科副読本「川崎市の水道」の無償配付（対象 小学4年生全員） ・水道週間行事の開催（施設見学会、小中学生作品コンクール、かわさき水道フェア等の実施） ・区民祭等でのPRの実施 ・各種パンフレット・リーフレットの作成配布等 ・上下水道局広報紙「かわさきの上下水道」 ・インターネットホームページ ・DVD製作 ・国際展示会等への出展 ・水道出前教室の実施	・小学生社会科副読本「川崎市の水道」の無償配付（対象 小学4年生全員） ・水道週間行事の開催（小中学生作品コンクール、かわさきみずみずフェア等の実施） ・区民祭等でのPRの実施 ・各種パンフレット・リーフレットの作成配布等 ・上下水道局広報紙「かわさきの上下水道」 ・インターネットホームページ ・国際展示会等への出展 ・水道出前教室の実施 ・施設見学会の実施
水資源の有効利用についての普及啓発による節水行動の促進 〔上下：サービス推進課〕	□普及啓発状況 ・かながわの水資源展の開催 ・上下水道局営業センターで節水コマ、クレップを無償で提供	・かながわの水資源展の開催 ・上下水道局営業センターで、節水コマ、クレップを無償で提供

*68 中水道システム：雨水や炊事、風呂の排水を浄化処理し、水洗便所、散水等に再利用するシステム。